

# 従来の指導法にICT活用を融合させた漢字指導法の開発 と全校実施体制の確立およびリーフレットによる普及

学校名

恩納村立山田小学校

所在地

〒904-0416  
沖縄県国頭郡恩納村字山田997ホームページ  
アドレス<http://yamadaschool.ti-da.net/>

## 1. 研究の背景

沖縄県では学力向上が大きな課題となっている。本校では、平成 24・25 年度と恩納村教育委員会の教科等指定研究校として基礎基本の定着のための学習指導に取り組んできた。その中でも漢字指導については、漢字に関する知識・技能の習得のみならず、宿題を毎日こなすという学習習慣、ていねいに字を書くなどの学習の姿勢の向上も意図して取り組んできた。漢字ドリル教材の活用の仕方を全学年で統一し、朝の帯時間や授業時間、放課後の帯時間を通して実践しており、学校全体としては少しずつ指導の定着が見られるようになった。しかし現状ではまだ全児童に漢字が確実に定着する段階には至っていない。

そこで平成 26 年度には、漢字指導における従来の指導法の工夫に、さらに ICT 活用を加え、これを融合させた漢字指導法を開発し、全校で実施できる体制を確立したい。これによる漢字に関する知識・技能の習得について確かめていきたい。また、学力向上は恩納村および沖縄県の大きな課題でもあることから、指導法の手順を著したリーフレットを開発し、指導法の普及に寄与したいと考えた。

## 2. 研究の目的

従来の指導法に ICT 活用を融合させた漢字指導法の開発と全校実施体制の指導法を明らかにし、その指導方法、全校実施体制を見える化したリーフレットを普及させる。

## 3. 研究の方法

校内研修（年間 11 回）や朝の帯時間や昼の帯時間での漢字指導を実践する。また、従来型の漢字指導を整理し、ICT を活用した漢字指導の開発や手順を明確にし、全校実施体制の確立を図る。その他、公開型の校内研（授業研究会）を 4 回行い、恩納村および近隣市町村、近隣市町村教育委員会等に広く一般に公開をする。そして、全校体制で取り組む従来の指導法に ICT 活用を融合させた漢字指導法の開発のノウハウをリーフレットにまとめ、全国および沖縄県内の学校や自治体等にも参考になるように普及を図る。

## 4. 研究の内容

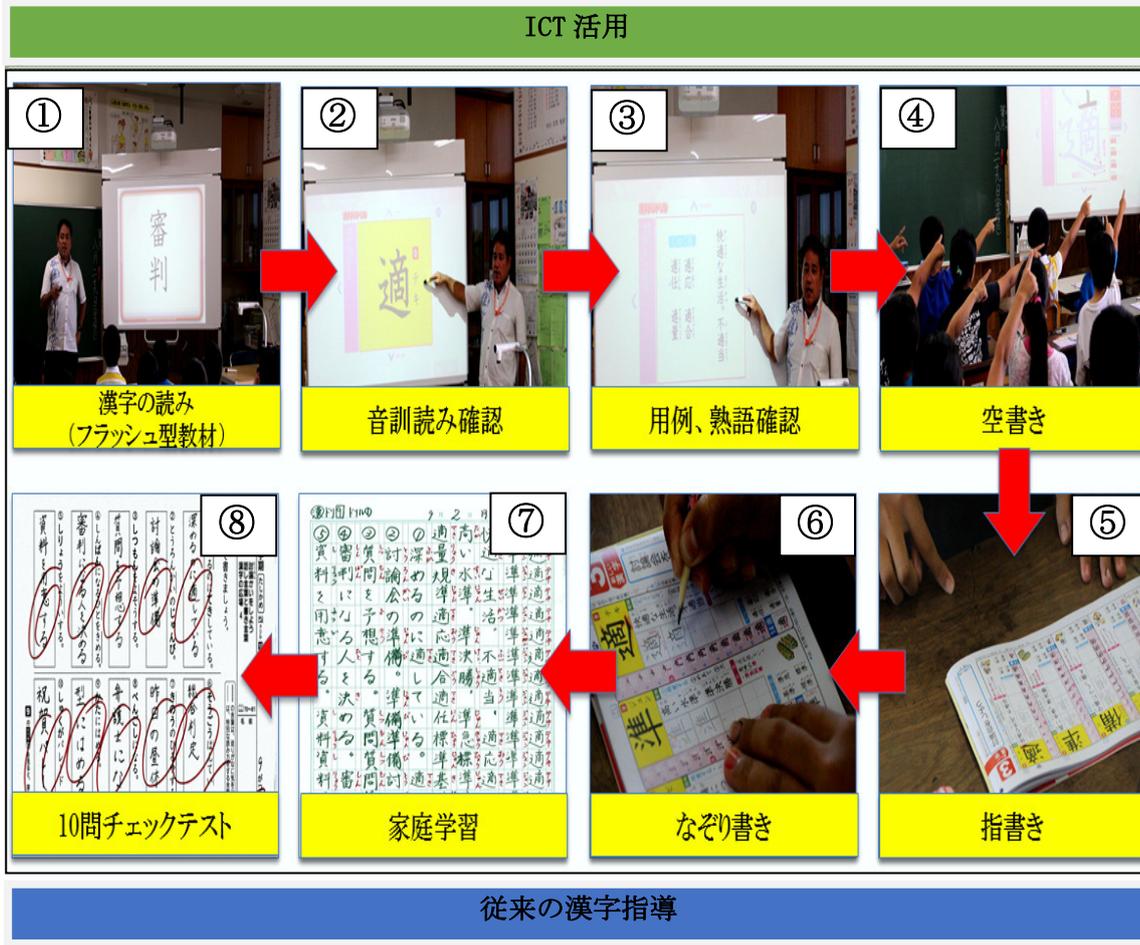
(1) 帯時間の有効活用 ～仕組みを週時程に組み込む～

朝の帯時間（10 分）漢字指導（月、火、水、金：週 4 回）と昼の帯時間（25 分）を効果的に活用し、漢字指導の充実から漢字力の定着を図る。

【朝の帯時間】	8:20～ 8:40	基礎基本 の時間(20分)	漢字指導10分 計算指導10分	漢字指導10分 計算指導10分	漢字指導10分 計算指導10分	8:20～8:40 小学校職員朝会 読み聞かせ	漢字指導10分 計算指導10分
【昼の帯時間】	13:15～ 13:40	チャレンジ タイム(25分)	国語・算数を中心とした学習内容:漢字ドリル、計算ドリル、個別ドリル学習(iPad:国語・算数) *フラッシュ型教材・フラッシュ基礎基本の活用 *全学年:水曜日漢字テスト、金曜日漢字テスト iPad:デジタルドリル国語:漢字(月:1年・2年 火:3年・4年 木:5年・6年)				

(2) 漢字指導のサイクル化

- ・ 漢字指導のサイクル化を目指す前提として、全学年（1年～6年）の漢字ドリル教材の統一。
- ・ 従来の指導に ICT を融合した漢字指導の手順を明確にする。
- ・ 指導の手順をパターン化することで、より効率的に効果的に指導することができる。



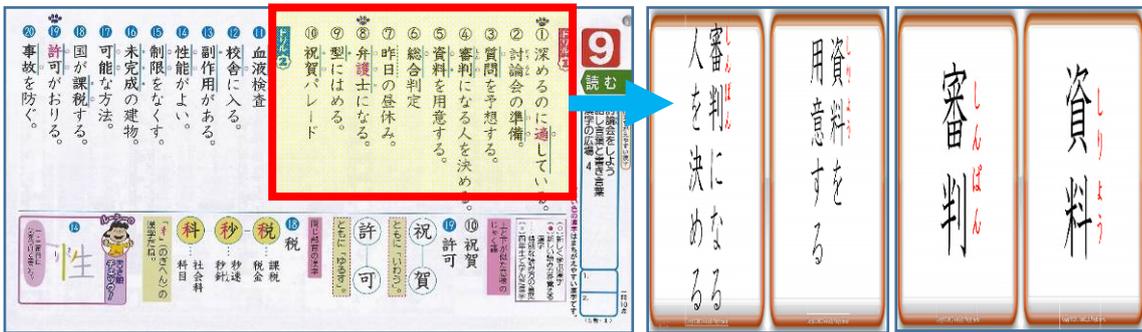
上記の漢字指導では、①～④ までは、ICT を活用した漢字指導となる。また、⑤～⑧までは、従来の漢字指導の流れとなり、それを2つ組み合わせた形となる。

実際に漢字ドリルに書く（なぞる）段階までに、ICT を融合させた指導は、フラッシュ型教材(①)で既習漢字（読み）の復習を行い、漢字デジドリル（②～④）を活用して、音訓読みの確認、用例・熟語の確認とテンポよく進め、空書き（3回）から指書き（30秒）までに8～10回は筆順を練習することになり、なぞり書きまでにしかりと筆順イメージが定着する。その後、なぞり書き（4回）で漢字1文字の指導が完了し、1日漢字2字指導を行い、日々の家庭学習に繋げ、1週間に2回のチェックテスト（水・金）で確実に定着できるようにシステム化を図った。

学校教材を揃えて、指導の手順を明確にし、サイクル化することで、教師の指導が明確化し、児童も毎日同じサイクルで行うので、安心して落ち着いて取り組むことができる。

(3) ICT を活用した漢字指導 ～ICT の良さを従来の漢字指導に効果的に組み込む。～

① フラッシュ型教材で「漢字の読み」の確実な習得（教科書、漢字ドリルの熟語、文例）



漢字ドリルの文例と熟語を、既習の漢字の読みの定着・復習として、漢字指導のはじめに行う。本校では、1日漢字2字指導するので、前の週では10字指導されており、その漢字の読みを確実に定着させるためにも、フラッシュ型教材で効率的に確実な漢字の読みの定着に繋げる。



② 漢字筆順ソフトの活用（漢字デジドリル：教育同人社）

本校では、漢字指導の際に、漢字ドリルに準拠した「漢字デジドリル（教育同人社）」を活用し、きめ細やかな漢字指導の充実につなげた。児童は、筆順アニメーションの動きに合わせて、筆順を唱えながら「空書き」を行う。教師は、その際には、児童の指先、筆順に合わせて、しっかりとできているか等児童を見ながら指導・確認することができる。



【空書き指導のチェックポイント】

- ①声を揃えて、筆順を言う ②とめ、はね、はらいを教師が適時確認。
- ③指先、ヒジをピンと伸ばす。④姿勢や空書きの指先、手の挙げ方の上手な子を褒める。

③ タブレット端末の活用

漢字指導や漢字チェックテスト（紙）と併用して、タブレットの自動採点機能、筆順チェック機能なども適時活用して、漢字の定着を図る際に活用した。個々の進捗状況に合わせて、進めることができた。また、苦手な漢字を集中的に練習する際や、漢字に苦手意識のある児童にも適時活用する際に役立った。



(4) 全校実施体制での取組 ～3月、4月、5月がより重要～

全校体制での漢字指導の取組みの大事なポイントとしては、前年度に学校としての明確なビジョンを持ち、指導の方向性を確定させ、4月からの漢字指導がどの学級でも指導できる体制を整えることが大切である。同じパターンをくり返すことが重要になる。毎日無理のない指導を1年間継続できるためにも、3月、4月、5月で漢字指導の体制を整えることが重要である。

(5) 全校実施体制での取組 ～学習規律の徹底の大切さ～

漢字指導の土台となるのが、学習規律の徹底。漢字指導の一連の流れでは、漢字の読み→筆順の空書き→指書き→なぞり書き→うつし書きとステップを踏んでいく。一つ一つの指導の際に、教師の指示をしっかりと受け止め、みんなと同じように活動できることが、とても大切になる。姿勢を正して、漢字の読みを大きな声で揃えて読んだり、また、漢字ドリルの紙面に筆順を唱えながら、ていねいに書いたりすることで、漢字指導の集中度、充実度が非常に高まりに繋がる。その他にも、机上の整理やドリルの置き場所なども決めておくことで、いつでも漢字ドリルを活用することが可能になる。日々の漢字指導には、多くの時間を割くことはできない。そのためにも学習規律を徹底し、さらに ICT も活用することで短い時間で密度の濃い漢字指導を実施することが可能になる。



(6) 全校実施体制で取り組んだ漢字指導のポイントをリーフレットにまとめる

全校実施体制で取り組んだ漢字指導の実際のポイントや手順などを整理して、リーフレットにまとめることができた。

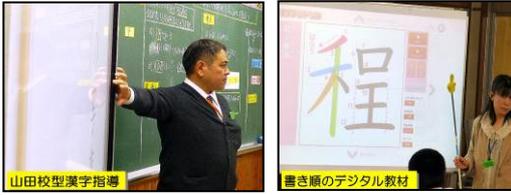
従来の指導法に ICT を融合した漢字指導の実際を、リーフレットを参考に指導ができるように整理した。

12/5（金）「パナソニック実践研究助成校公開研究会」の際に、全学級で漢字指導を公開し、参観者 200 名にリーフレットを配布した。また、所轄管内 68 校へもリーフレットの配布を行う。



## 5. 研究の経過

実施月	実施内容	
H26/3月 *前年度	H26で実施する漢字指導を校内で共通確認・協議。漢字ドリルの採択決定。指導の方向性を共通確認しておく。3月下旬に教材を発注。(春休み中に教材の内容を共通確認するために)	
H26/4月 春休み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月1日には、学校教材が届く。漢字ドリルの内容、本校の漢字指導の仕方について確認。</li> <li>・模擬授業形式で実演→確認。指導イメージを共有化</li> <li>・指導の流れ、漢字テスト、漢字練習帳、家庭学習のさせ方等も詳細に確認していく。</li> </ul>	
H26/4月 1週目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字指導の前にドリルの使い方について、児童と指導の前に確認していく。</li> <li>・各学年で漢字ドリル指導する前に、漢字ドリルの使い方をしっかりと確認する。</li> </ul>	
4/16	ミニ研究授業（漢字指導の流れを提案・確認）を実施し、小学校全職員参観のもと4年1組で漢字指導の実際を公開→漢字チェックテストまでの一連の流れを実施。	
4/17	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字指導を実践している先生の指導の動画を視聴。</li> <li>・漢字指導の参考となる書籍を一読、漢字指導の留意点などを理論的に確認。</li> <li>・漢字チェックテストのさせ方、指導の仕方等を共通確認。</li> </ul>	
5/7	・村内スキルアップ研修会での漢字指導の様子を公開。	
5/9	・他市町村の教育委員会学校視察。4年1組でのICTを活用した漢字指導の授業を公開。	
5/16	・指導の進捗状況把握。・家庭学習との取組み、課題把握。・指導の実際をチェック、助言。	
5/30	<p>第1回公開校内研究会で、5年国語の研究授業での漢字指導の実際を公開。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・堀田 龍也先生（東北大学大学院教授）漢字指導について指導助言を頂く。</li> </ul>	
6/3	・他市町村の教育委員会、小中学校職員学校視察。・漢字指導の様子を公開。	
7/4	・漢字指導の進捗状況、確認・把握。・漢字指導の様子を朝の基礎基本の時間、チャレンジタイムを参観して確認。	
7/22	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教材活用ミニ研修会を実施。教育同人社さんを招いて研修を実施。学校教材を作成している企業の方から漢字ドリルの構成、ドリルの活用の意図、漢字ドリルの指導について学ぶ。</li> </ul>	
8/23	・東京で実施された、「第5回学校教材活用法セミナー」本校職員3名参加。全国で実践されている先生の学校教材活用や指導のポイントをセミナーで学ぶ	
9/19	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字指導の進捗状況、確認・把握。・フラッシュ型教材の「読み」の指導。</li> <li>・漢字指導の手順、指導言等、細かな指導を共通確認。</li> </ul>	
9/30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3回公開校内研究会実施。・全教室で山田小型漢字指導の公開。</li> <li>・全国から20名、県内30名の計50名の学校視察・校内研参観。</li> <li>・堀田 龍也先生（東北大学大学院教授）漢字指導について指導助言を頂く。</li> </ul>	

12/5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第4回公開校内研究会、パナソニック実践研究助成校公開研究会、参観者200名に全教室（1年～6年）で山田小型漢字指導の実際を公開、リーフレットを配布。</li> <li>・堀田 龍也先生（東北大学大学院教授）漢字指導等の指導助言を頂く。</li> </ul>	
------	--	--

## 6. 研究の成果

本研究では、従来の指導に ICT を融合した漢字指導の開発し、それを全校実施体制で行うことを目標として実践してきた。4月の春休みから、漢字指導についての詳細な確認を行い、日々の実践を通して漢字指導の向上を図ってきた。漢字指導のシステム化することで、教師も日々の指導がきめ細やかになり、児童は、漢字指導のサイクルが明確なので、落ち着いて漢字指導に取り組むことができていた。漢字の定着率でも、全校の平均定着率は、85%を超えていた。

「全校体制で取り組む従来の指導に ICT を融合した漢字指導システムの確立」というタイトルでのリーフレットにまとめることができた。このリーフレットをもとに既に本校の漢字指導を手本に全校体制で取り組む学校が村内はじめ、近隣市町村でも実践されている。

この研究をもとに本校の漢字指導のシステム化に繋がり、また、教師も児童も漢字指導の充実に繋がったことが大きな成果である。

## 7. 今後の課題・展望

山田小学校では、第1学年から第6学年まで単学年のため、教職員の異動による影響も大きい。そのため、山田小型漢字指導の実際をしっかりと引き継ぐことが課題となる。この研究で得た成果を、今後も山田小スタンダードの実践として、校内研修でしっかりと継続・発展できるように研修体制や意図的な研修計画実施できるように組織でしっかりと対応できるようにしていきたい。今後の展望としては、村内、近隣市町村をはじめ、沖縄県内や全国に、従来の指導に ICT を融合した漢字指導の実際を紹介、広げていけるように本校の実践の質をさらに高めていきたい。

## 8. おわりに

山田小学校の漢字指導に関する研究では、東北大学大学院教授 堀田龍也先生には、多くの指導助言を賜りました。また、本校の漢字指導の在り方、システム化についての多くのご示唆も頂きました。この場をお借りして、厚く御礼を申し上げます。ありがとうございました。

### <参考文献>

- ・堀田龍也・学校教材活用指導法研究会（2014）『ベテラン先生直伝漢字ドリルの活用法』教育同人社